

12月12日(土曜日)「福音の性質・神の愛」

【新改訳 2017】

ローマ 5・1-11

「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」(5節)

この聖句は、今から四十年前の秋、筆者がまだ十八歳の時に、初めて聖書を読んだ時、苦悩の中から生きる希望を見いだすきっかけとなりました。今も、個人としての信仰の原点はここにあります。後に、ヨハネの福音書の有名なことば「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」(3・16)とともに、福音の特質は、神の愛にあることを確信させてくれました。

この箇所の後半には、神の愛について、三点から述べられています。

主は、①弱い者、②罪人、そして、③敵対する者をも愛し、彼らが救われるためにいのちを捨ててくださったのです。なん

という愛でしょう。今も、この愛は注がれているのです。

～祈り～

父なる神さま。あなたは、このように弱い、罪深い、敵対していたような者を愛し、お救いくださいました。どうか一人でも多くの方が、この愛によって救われますように。

### 【学びのために】

愛:ギリシャ語でアガペー=主体的価値判断の愛。神の愛に用いられます。エロース=情欲の愛(元来は真理へのあこがれの意。聖書には出てこない)。フィリア=自然発生的愛、人情、友愛の意。ストルゲー=肉親愛、骨肉の情の意などがあります。